JGAP2022における温室効果ガス削減等の管理点

2023年11月10日 一般財団法人日本GAP協会

最新版: JGAP2022の概要

- JGAPは、SDGsで注目される持続可能性について農業の面では多数の要素を有しており、その重要性はますます上昇。
- 農林水産省「国際水準GAPガイドライン」(令和4年3月策定)にも準拠。
- 畜産は2023年1月4日から、農産は2023年2月14日から運用を開始。

JGAP

ジェイギャップ Japan Good Agricultural Practices (日本の 良い 農業の 取り組み)

農場用 管理点と適合基準

青果物 2022

JGF

2022年11月14日 発行 2023年 2月14日 運用開始

<改定の概要>

- 1. <u>農業の持続可能性に関する要素の整理と明確化(人権の尊重、温室効果ガス削減やIPMなどの環境保全)</u>
- 2. CODEX HACCPの改定やスマート農業などの新たな動向への対応
- 3. 管理点の目的や意図を適合基準に記載し、内容を分かりやすく簡易な表現に変更
- 4. 農場用管理点と適合基準では、章の構成を共通項目(農産と畜産の共通項目)とそれぞれ の専用項目に整理
- 5. 総合規則ではISOなどの最新の知見を踏まえるとともにわかりやすくルールを整理

JGAP2022における温室効果ガス削減対策①

番号	レベル	管理点	適合基準
11.2		省エネル ギーの推進	温室効果ガス削減対策のために、以下に取り組んでいる。 (1) 電気、ガス、重油、ガソリン、軽油、灯油等のエネルギー使用量の 把握 (2) 施設、機械の省エネルギーのための計画を文書化および実施 (3) 再生可能エネルギーの採用の検討
12.1	必須	廃棄物の適 正処理およ び資源の有 効利用	廃棄物の適正処理、温室効果ガス削減対策のために、生産工程で発生する廃棄物について、農場から出る廃棄物を把握し、以下を文書化し実施している。 (1)環境を汚染しない保管方法 (2)法令、行政の指導に則した処理方法 (3)削減のための努力
C1.3	重要	炭素の貯留 に配慮した 土づくり	土づくり、有機物の地域内循環および温室効果ガス削減対策のために、以下に取り組んでいる。 (1)炭素貯留に配慮した土づくり計画の文書化 (2)地域内で発生する有機物、植物残渣の積極的な活用

JGAP2022における温室効果ガス削減対策②

- JGAP 2022 穀物 専用の管理点 -

番号	レベル	管理点	適合基準
11.3	重要	温室効果ガス(CH4) の発生抑制	水田におけるメタンガス発生を抑制するために、必要な対策を実施している。 例えば下記の対策をとっている。 (1) 稲わらは堆肥化後に水田還元している。 (2) 無代かき栽培をしている。 (3) 幼穂形成期前の中干処理をしている。 (4) 幼穂形成期前及び出穂後の間断潅漑をしている。 (5) 暗渠排水・心土破砕等の処理による透水性の改善をしている。 (6) 含鉄資材の使用等により土壌の酸化容量を高めている。 (7) 稲わらの秋すき込みをしている。